

ENŌKI

えのき



江戸川小学校

**天まで揚がれ！
手作り凧！**

江戸川小学校の1年生18人は、生活科の「ふゆをたのしもう」の学習で、エイ凧作りに挑戦しました。

12月に、各々お気に入りの絵を和紙に描いておき、年明けに「日本凧の会」の名人さんをお招きして凧作りを教えていただきました。

エイ凧は、正方形の和紙に竹ひごを十文字に組み合わせて取り付け、長いヒシを付ければ完成です。小学1年生にとっては大変作りやすい凧で、どの子も楽しんで取り組むことができました。作成は45分ほどで終了し、いよいよ外で凧揚げです。

走りながら揚げるビニール凧と違い、風を受けると、どんどん空に揚がっていくエイ凧に大興奮！風の向きに気を付けながら、糸を引いたり緩めたりして高さを競い合いました。

季節感のある日本の伝統文化を楽しく味わいました。そして、冬空に舞う色とりどりのエイ凧と子供たちの歓声が、寒さを吹き飛ばした爽やかなひと時でした。

地域の歴史⑦

昭和20年5月25日の空襲による罹災

前榎町町会長 大竹良重

住まいを失った我々は、避難所に指定された原町の牛込高等小学校（旧制）で一時の生活を余儀なくされた。この時、鮭缶も支給されたが、缶の蓋底は膨れ上がっていた。どこかの倉庫で火を被った物だと言う。勿論有難く頂戴した。その時、多くの罹災者が、それぞれ何を思っていたのかは当然分からない。だが一般国民の大多数は、家が焼かれても、これが戦争だと割り切っていたと思う。また、今後の生活がどうなるのか、の不安も表にだすことはなかった。戦時下の町会・隣組は、大政翼賛会の末端組織で、国策の周知徹底を目的とし、軍国主義のもと戦争協力への教育機構でもあった。普通に知られている隣

保と食糧他の生活必需品の配給を行うだけの機構ではなかった。ここで、銃後の守りという標語のもと、自然と自己犠牲（滅私奉公）の精神が植え付けられていた。自分の罹災体験をまとめて気付くのは、炎の中を逃げ惑ったわけではなく、焼夷弾に直撃された人や、焼夷弾の油脂や火災で火傷を負った負傷者にも遇っていない。犠牲者は数体の方を見ている。これは、避難路上で亡くなられた方で、路地等は含まれていない。犠牲者は、避難所に向かう道筋でも何体かの方をみている。一資料に依ると、この日と前日と4月13日の3回の空襲で、牛込区では500人を超える犠牲者を出している。内訳は不明である。同じ日に（5月25日）空襲を受

けた赤坂、麻布、渋谷方面では、3600人以上の犠牲者を出している。本文の5月25日の空襲で我々の住む地域で、火災による犠牲者が非常に少なかった。この理由として、前回の空襲で隣接地域はすでに焼け野原になっていたこと。強制疎開が進み火除け空き地が出来ていたこと。疎開で人口密度が低くなっていたこと。地元に正式の防空壕が無かったため、避難開始が早まったこと。焼夷弾の破裂前に落下現場を脱出したこと。B29爆撃の主目標ではなかったと思われること。等が挙げられるが、第一には、逃げた先に被害がなかった事であろう。以上は、自分の居住地域中心の分析である。私が体験した護国寺前への避難に中心を

置き分析すると、同じく避難した大勢の人々も無事に空襲の夜を明かしたのであるが、火災は音羽通りを、音羽町九丁目、八丁目、七丁目と上って来ていた。小日向台町、小日向水道町も全町焼失している。護国寺前に留まっていた人々は私を含め、雰囲気から推測して、音羽通り入り口付近の火災発生には、殆ど気づいていなかったと思う。火災が焼け止まらずに、音羽町六丁目、五丁目、四丁目と上っていたら、護国寺前の避難者のその後は、予測出来ない。（今日あるのは、僥倖に恵まれたことと感謝しなければならぬ）この現実を体験記にすると、生しい描写もなく迫力に欠けるものになる。大規模空襲の中で稀有な例であろう。

町連防災倉庫立ち上げ訓練

榎町地区町連防災倉庫運営委員会（委員長：中村廣子町連会長）は2月17日（金）に運営委員による町連防災倉庫（弁天町32番地）を拠点とした「防災倉庫立ち上げ訓練」を実施しました。

訓練は「防災倉庫の役割の確認」「防災倉庫内の物資の確認及び動作確認」の2つを目的とし、震度5の地震発生を想定して、震災時の「受付の設置」「物資の準備」「地域本部との情報の共有化」を柱として行われました。訓練メニューは発電機の始動や被害状況の確認・情報伝達など13の項目を設定し、参集した委員により手分けして迅速かつ円滑に行われました。

参加した委員からは「今回のような訓練を今後も繰り返し行い、委員同士が顔見知りとなり、訓練内容の精度を高めることが地域の安心安全につながる」との感想が寄せられました。

榎町地区町連防災倉庫運営委員会では、毎年「防災倉庫立ち上げ訓練」を実施し、今後30年の間に発生するとされている大震災への備えを充実していきます。



「春から夏まで」の 作品募集

榎町地域センターでは、館内展示用として春から夏までの季節感あふれる写真、絵画、切り絵等の作品を募集しています。皆様がこれまでに撮影又は作成をした作品をぜひお寄せください。

サイズ	概ねA4からA1くらいまで
提出方法	額縁に入れ、撮影者又は作成者、タイトル、場所をご記入の上、榎町地域センター2階事務局までお持ちください。
提出期限	平成29年6月30日まで
展示期間	提出後概ね2週間から1か月間くらいまで
展示場所	榎町地域センター
留意事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 作品は丁寧に扱いますが、万が一破損等した場合であっても、責任は負いかねますので、提出に当たっては、この点ご留意ください。 ② 作品の内容によっては、展示をお断りさせていただきます。 ③ 提出数に上限はございませんが、より多くの方の作品を展示したいと考えておりますので、あらかじめご了承ください。 ④ 提出いただいた作品は、展示期間終了後、お返しいたします。 ⑤ 作品の時代や場所は問いません。



早稲田地区青少年育成委員会

むかし遊び・もちもちの会

3月12日(日)、牛込第二中学校を会場に、毎年恒例のお餅つきとむかし遊びの会を催しました。一、二年生が3月に卒業を迎える三年生に何かお祝いしてあげたいという気持ちが見現化してお餅つきが始まりました。

中学生の実行委員は、もち米を蒸すところから、杵でお餅をつき、つき上がったお餅を丸めて餡子やきな粉をからめ、来校した皆さんにお餅を配り、最後の後片付けまで手慣れた手つきでお餅つきの全てをこなしていきました。新宿区長にも参加いただき、一番初めのお餅を中学生と一緒についてももらいました。昼食にはつきたてのお餅を入れたお雑煮をいただきました。

むかし遊びも、子どもたちに人気がありました。けん玉や羽根つき、コマまわしなど、中学生のお兄さん、お姉さんに遊んでもらって大喜びでした。校庭で風揚げもしました。自分で作ったオリジナルの風です。晴天の青空の下、高く、遠く揚がっていました。参加総数は二五九名でした。来年のお餅つき、お楽しみに！



日本の伝統芸能を楽しむ会〜落語をきま〜

3月18日(土)、榎町地域センターを会場に「日本の伝統芸能を楽しむ会」を催しました。今回は、「落語をみんなできごと」と題して、春風亭正太郎さん、春風亭ぴっかり☆さん、二人の噺家さんをお招きして、江戸の昔を今に伝える古典落語を披露していただきました。

落語ってどんなもの。何が面白いの。さまざまな子どもの疑問に答えるべく、噺家さんは身振り、手ぶりで日本の話芸を楽しむ方法を教えてくれました。演目前のまぐらでは、焼き芋を食べるときの手拭いの使い方や扇子で刀を抜くところなどを教えてもらいました。二人の子どもが高座に上がり、お蕎麦を食べる所作を教してもらいました。二人とも、お辞儀の仕方も様に成り、お蕎麦をすするところも良くできました。

ぴっかり☆さんが「転失気」。正太郎さんはおなじみの「寿限無」を演じました。良く知っている演目でも、噺家さんによって表現の仕方がみな違って、いつでも新鮮に聴こえるのが古典落語の良さです。

江戸時代、長屋住いの庶民の粋な意地やばかばかしいお笑いネタ、現代の子どもには少し難しいところですが、将来、落語が楽しみのひとつになってくれるかもしれません。



春風亭正太郎



春風亭ぴっかり☆



春風亭正太郎



花いっぱいでお別れ

3月のある暖かな日、5年生が卒業式の会場を彩るための花の苗をプランターに植えました。

この苗は、榎地区協議会(環境美化分科会)が学校と地域の環境美化・緑化推進のために毎年用意してくださっているものです。今年はバラエティーに富んだ様々な種類の苗をいただき、楽しみながら植えました。

今回使用した土は、地域協働学校「みどり支援部」の桐生さんを中心に、「土の再生」に取り組んでいただいたものを使用しました。夏に「みどりのカーテン」を作るためにゴーヤを植えていた土を、余分な根や葉などを手作業で丁寧に取り除き、ビニール袋に入れて数日天日干しをし、肥料を入れ、栄養のある土に再生したものです。ふかふかの手触りの土の中からは立派なミミズが何匹もでてきて、栄養状態がよいことを実感しました。

卒業式の会場である体育館がたくさんの花で彩られることを想像しながら苗を植えている5年生からは、卒業する6年生に思いを寄せ、6年生になる心の準備をしている様子が伝わってきました。いただいた苗は入学式まで大切に育て、新1年生を花いっぱいでお迎えした後は、学校正門前に飾らせていただく予定です。



桜を

楽しもう

今年もお花見も過ぎ神田川筋も静かになりました。花見と言えば皆様もご存知の染井吉野です。ソメイヨシノはエドヒガンとオオシマザクラの種間雑種であることも広く知られています。

満開の花を愛でながら宴会をすると言うのは昔からあることで、落語にあるように白い大根の漬け物を蒲鉾に黄色い沢庵を卵焼きに見立てて花見をするというのがあり、花より団子と言うのもこれは常識で、大きく言えば我が日本国の文化ではないでしょうか。

桜と言っても染井吉野ばかりが桜ではありません。物の本によりますと八十種以上もあるとのこと、東京では新宿御苑が有名で六十種以上が植えられています。また桜は春ばかりではなく、十月桜や冬桜などは冬でも咲いているし、河津桜

の地元では、元日に咲かせてお客を呼ぼうとしているとか。

ご存知のように桜には、一重と八重、枝垂もあり、色も深紅から薄紅、白色に近いものがあります。また珍しいものでは薄黄色の(鬱金)、薄緑色の(御衣黄)が新宿御苑にあります。

ここで近くにある珍しい桜を二、三挙げてみましょう。比較的早く咲く彼岸桜のなかまでカンヒザクラは筒状に下を向いて咲き、濃い紅色で、小石川植物園に枝を大きくひろげた大木があります。また近くでは江戸川公園の入り口の右側にあります。これはひっそりと咲いているのであまり目立ちません。

新目白通りの下落合二丁目の諏訪神社の境内に二本植えられています。染井吉野の前に濃い桃色の花は梅と同時に咲いて見ごたえがあります。

甘泉園の入り口右側に枝垂れ桜の高木があり回りに障害物がないので、楽しく見上げることが出来ます。皆様もお花見の場所を『えのき』に発信して下さい。



◀河津桜



◀寒緋桜



◀鬱金

「夢と希望をありがとう」

女子やり投げ日本記録保持者 海老原有希選手をお招きして

海老原有希選手はロンドン五輪、リオ五輪に出場し、現在も東京五輪を目指す現役選手です。2月18日、早稲田小にお招きし、明るく、楽しいお話に、体育館に集まった小学3年生から6年生は引き込まれました。

リオ五輪での、選手村や、体育館数個分ほどの広さの食堂、オリンピック会場の様子を、映像や写真で教えて下さり、裏側を知ることができました。4年後の東京五輪を重ね合わせ想像し、楽しみにまりました。

また、プロ野球の始球式を数度経験されており、球速103kmを出す強肩で話題になったこともあるそうです。

海老原選手は小学校では野球、中学校ではバスケットをやってきたそうですが、怪我のため、恩師の勧めで、高校からやり投げを始めたそうです。怪我などで不本意な結果になっても、めげず、前向きに出来る事をやる事が大切だと感じさせられました。

自分には何も秀でるものがないと思っ
ていても、人との出会いや人数合わせな
ど、何かのきっかけで道が開けることも
あり、小学生の可能性は限りなく広がっ
ている気がしてわくわくする気持ちにな
りました。そして、海老原選手の東京五
輪出場に期待し、応援し続けたいです。



「おいしい！ 七輪体験」

早稲田小学校3年生

2月14日(火)早稲田小学校の3年生が七輪体験をしました。社会科「変わってきた人々の暮らし」の学習の一環で、昔の人の生活を体験することで、現在との違いや良いところ、大変なところを感じることが目的です。

657人に1台の七輪が用意され、先生や地域ボランティアの方々を着火を行い、炭に火が定着するまで、児童が送風口からうちわで扇ぎました。炭の着火が安定せずに苦労するグループや、食べ物が焼けるのをじっと待つグループ。「本当に昔こんなことをしていたのかな。」とつぶやく声も聞かれました。じっくり火が通つてぶっくり膨れ上がるお餅は、程よい焦げ目がついて、何もつけずとも「おいしい!!」の声。最後に、手伝ってくれた地域の方々に感謝をして、お腹も心も満腹満足な楽しい授業でした。



高齢者クラブでいきいき 元気に暮らそう

20

榎地区の高齢者クラブの最近の活動状況をお知らせします

* 弁天町和老クラブの快挙「おめでとぅございませす」

1、平成28年度秋季高齢者福祉大会(平成28年11月17日(木)に開催)合唱の部において優秀賞を受賞しました。

2、平成28年度第25回輪投げ大会(平成28年12月5日(月)に開催)において優勝に輝きました。

*平成28年度第25回輪投げ大会

榎地区からの参加チームは11チームで、弁天町和老クラブが(325点)で優勝。

山吹会が9位、榎町友の会が10位にそれぞれ入賞しました。
他の榎地区の参加チームは次のとおりです(成績順)

- ・早稲田永楽会・西鶴クラブ・あかぎ友の会・早南クラブ
- ・原二わらく会・薬王寺長寿会、柳町すみれ会、原一あゆみ会。

また、榎町友の会の牧多久作氏が最高齢者賞を受賞しました。以上

*第57回「将棋大会」の成績

平成29年2月5日(日)に開催された第57回将棋大会においては、榎地区の方の上位入賞者はありませんでした。

*第57回「囲碁大会」の成績

平成29年2月19日(日)に開催された第57回囲碁大会においては、次のとおりの成績をおさめました。おめでとぅございませす。(敬称略)

- ① Aクラス 優勝 三木 忠 六段(柳町すみれ会)
- ② Bクラスにおいては該当者ありませんでした。

(資料提供:新宿区高齢者クラブ連合会)

みんな集まれ つり大会



牛込仲之小学校、江戸川小学校、鶴巻小学校、早稲田小学校の小学生の皆さん、中学生のみなさん、市ヶ谷外濠の釣り濠で鯉釣りに挑戦してみませんか。2時間の間に鯉を何キロ釣り上げたかを競い合います。ご家族も一緒にご参加ください。

●日時 6月18日(日)

午前9時～12時

雨天のため中止した場合
は、6月25日(日)に実施

●会場 市谷フィッシュセンター
新宿区市谷田町1-1

●参加申込み

5月中旬に学校から配布される申し込み書に必要事項を記入してお申し込みください。

*右記の四小学校、牛込第二中学校以外の学校に通い、釣り大会参加を希望する小中学生は学校名、学年、氏名、住所、保護者の連絡先を記載し6月1日以降メールにてお申込みください。

実施情報はこちらから↓



E-mail
yamanoouface@yahoo.co.jp

主催 早稲田地区青少年育成委員会

スポーツ交流の お知らせ

ユニカール輪投げ

●日時

① 4月2日(日)

② 4月16日(日)

③ 5月7日(日)

④ 5月21日(日)

⑤ 6月4日(日)

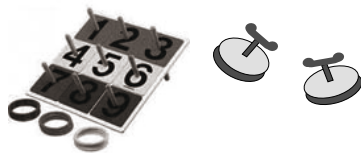
⑥ 6月18日(日)

⑦ 7月2日(日)

⑧ 7月16日(日)

①～⑧ 午前10時～12時

●会場 榎町地域センター
4階 多目的ホール



卓球

●日時

① 5月7日(日)

② 6月4日(日)

③ 7月2日(日)

①～③ 午前10時～12時

●会場 早稲田小学校体育館

*運動しやすい服装で、うわばきを持参ください。

*申込み・参加費は必要ありません

問合せ 黒川孔晴

Tel(3268)1777

主催 わせだスポーツ・文化協議会

榎町地域センターからのお知らせ

ワンコインえのき寄席

「若手落語会」

日時：6月25日(日)

開場：午後12時30分

開演：午後1時

会場：榎町地域センター
4階 多目的ホール

入場料：500円

定員：120名

出演：桂 宮治

立川 こはる

*チケットは5月1日(月)より榎町地域センター2階事務局で販売します。

納涼カラオケ大会

日時：7月30日(日)

午前10時～午後4時

会場：榎町地域センター
4階 多目的ホール

参加費：300円

募集：72名

榎町地域センター
4階 多目的ホールにて受付

申込み：6月25日(日)午前10時より

*申込書は5月17日(水)より

榎町地域センター2階事務局にて配布します。

トピックス

トピックス

ネットで話題の「和室の庭」をご紹介します。

榎町地域センター2階和室内の坪庭は、活字で作られています。3月11日にツイッターで投稿された画像が評判を呼び、3月15日には、日本テレビ「NEWS ZERO」で紹介されました。和室の利用が無い場合に限り、ご覧いただけます。

(平成24年4月26日発行「ENOKI41号」にて掲載)



えのき文芸

俳句

祝はれて三月嬉し誕生日

飯田 もと子

夫に似し後姿や春一番

加藤 理君

麦生々げんげなずなの遍路道

金澤 誠

はなちればにわはピンクのじゅうたんだ

かなざわ てつや (小二)

春時雨しとどに濡れて帰りけり

軽部とみ子

五輪宿舎遺る一棟ミモザ咲く

川口 あきを

春愁や食べず嫌いの魚あり

北野 明治

伊豆宿り窓絵画ごと山桜

北村 妙子

予報士の指し棒今日も春嵐

木村 かづこ

桜散り川面に流る花いかだ

久根下 和子

みちのくの時代籬や雅叙園

菅原 美智子

答辞読む声伸びやかに卒業す

梨平 美沙子

鉄塔の影が揺れるる春夕陽

水上 香子

短歌

輪投げなど子等の遊びと笑った

老いて楽しやされど難かし

奥瀬 イチ

春の空仰ぎて揺れるブランコの

僕の背を押す休日のパパ

加藤千代子

はだか木の枝に群れたる雀らが

朝日を浴びて温もりており

金城 光祥

川柳

流行るかな覚えてません知りません

国会は籠池節で暇つぶし

菅野 あきら

愛された記憶が過去を浄化する

相槌を打てば止まらぬ立ち話

小山 一湖

悩むよね免許返納過疎の村

物足りぬ来てはみたけど一人旅

田実 致

春の花



←
花菖蒲 (ジャパニーズアイリス)
アヤメ科の多年草。ノハナショウブを原種として、日本で改良され白、桃、紫色など非常に美しい。

→
モスフロック (芝櫻)
ハナシノブ科の多年草。茎は地上を這い大面積を被うのは圧巻である。



広報部からのお知らせ

「家族の肖像」「技の伝承」「地域の歴史」の企画記事の情報をお寄せください。

広報誌「えのき」に関するご意見やお問い合わせ、情報提供も榎町地域センター事務局までお寄せ下さい。

「えのき」文芸に掲載の作品を募集しています。次号の俳句のお題は『夏』、川柳は自由吟です。投稿はハガキかファックスに、俳句・川柳の別を明記の上、6月10日(土)までに榎町地域センター事務局までお送りください。

〒162-0042
新宿区早稲田町85
TEL (3202) 8585
FAX (3202) 2478